



統率方針 積極・前向きに  
要望事項 「和」「備え」

六甲

〒664—0014  
兵庫県伊丹市広畑1-1  
電話 072-781-0021  
内線 8-71-3403

一面 第15代連隊長 吉岡1佐着任式  
二面 師団長初度視察受け、#1及び#2連隊集中野営訓練  
三面 #1師団訓練檢閲支援、南海レスキュー、連隊重機関銃  
四面 広島県豪雨に伴う災害派遣、新隊員後期教育、UNMI  
五面 TV取材対応、駐屯地納涼行事参加  
六、七面 定期昇任、定期表彰、人事往来、成績優秀者紹介等  
八面 河野連隊長離任式、定年退官者紹介、4コマ漫画等

平成26年8月1日付で吉岡正孝（よしおかまさたか）1等陸佐が、第15代第3後方支援連隊長に着任した。

着任の辞

隊であり、それぞれの部隊の中に、異なる職種や多くの特

着任の辞

「第3後方支援連隊長を拝命し、本日から指揮をとる吉岡1佐です。よろしくお願いします。

それでは、連隊長として勤務するに当たり、私の統率方針、そして、皆さんに対する要望事項を述べます。

統率方針は「に」であります

そもそも、後方支援連隊は

被支援部隊の能力を100%  
発揮させ、師団の総合発揮へ

貢献するために、存在していると認識しています。すなわち、我々は、平素から、常に頼られる存在を目指し、積極

的に被支援部隊に尽くさなければなりません。したがって待ち受けではなく、自ら積極的にニーズを把握し、即座に

対応するとともに、日々の業務等に対して、積極・前向きに取り組むことが重要であると考えています。この際、原

点・目的である「何のために  
を忘れず、日々、業務等に取り  
組んでいただきたい。  
次に、要望事項ですが2つ

あります。

一つ目は「和」であります  
後方支援連隊は、機能別部

隊であり、それぞれの部隊の中に、異なる職種や多くの特技が存在するという特性を有しております。被支援部隊のニーズに対応するためには、後方支援部隊の各機能を総合して戦力・能力を発揮しなければなりません。したがって本部と部隊の「組織、職種、機能、特技等」が密接に連携・一体化して、一丸となつて任務達成に邁進していただきます。

二つ目の要望事項は「備え」であります。

後方支援連隊は、鈍重であり、準備には時間が必要です。したがって、あらゆる事態が生じたならば、被支援部隊

のニーズも含め、直ちに対応できるよう、平素から、装備資器材、各種計画、心構え等あらゆる準備をしっかりと実

施し、あらゆる事態に「備えて」いたきたい。

以上、連隊長として勤務するにあたり、所信の一端を述

べたが、精強な連隊・人材を育成するために、全力を尽くす所存であるので、連隊本部付隊、第1整備大隊、第2整

備大隊、補給隊、輸送隊そし

て、衛生隊のみんな、よろしく頼む。」

A Japanese naval officer in a grey uniform with a peaked cap and medals is speaking at a podium outdoors. He is holding a microphone and a small object in his hands. The background shows green foliage and a building.

## 着任の辞を述べる吉岡連隊長

吉岡連隊長プロフィール  
生年月日 S 44. 5. 5

宮崎県出身  
防衛大学校36期（機  
職種 武器科

部隊歴

$$\begin{array}{cc} \text{H} & \text{H} \\ 2 & 5 \\ \cdot & \cdot \\ 3 & 3 \end{array}$$

H	H
2	12
.	
8	3

$$\begin{array}{r} \text{H I} \\ 141 \\ \cdot \\ 83 \end{array}$$
H  
16  
8

19.3

11

H  
21.  
8

3.

$$\begin{array}{r} \text{H I} \\ 242 \\ \cdot \\ 78 \end{array}$$

464

---

隊長プロフィール  
S 44・5・5  
36期（機）  
器科

第1後方支援連隊武器隊  
武器學校  
幹部學校  
北部方面後方支援隊第一〇二  
全般支援大隊整備中隊長  
陸上幕僚監部人事補任課人  
事第1班  
陸上幕僚監部教育訓練部教育  
訓練計畫課制度班  
陸上幕僚監部運用支援・情報  
部情報課総合情報班  
陸上自衛隊幹部學校付  
統合幕僚監部首席後方補給官  
付後方補給室後方計畫班長  
を経て、この度着任した。  
中方勤務は初めてとなる。



# 小林師団長初度視察受け



幹部挨拶

連隊は、平成26年8月26日(火)、千僧駐屯地において、第36代3師団長小林陸将の初度視察を受察(出迎え、幹部挨拶、状況報告等)した。

幹部挨拶時に小林師団長は、隊員一人一人と固い握手をされ、状況報告の最後には「後方支援連隊は、作戦において必要不可欠な部隊なので大いに期待している」と述べられた。

引き続き、D号隊舎の事務所等を巡視された後、隊員の生活ぶりを確認すべくE号隊舎7階へ、最後は、南側地区の整備実習場や部品倉庫へと足を運ばれた。

各整備実習場において第1整備大隊の車検整備等、第2整備大隊のLAV及びRCV整備、補給隊の部品

「後方支援連隊は、必要不可欠な部隊」

品倉庫において納品物品の荷分け等をそれぞれ確認され、連隊の保有する多種多様な装備品や整備実習場及び部品倉庫での恒常業務を熱心に視察され終了した。



巡視



初度視察記念

## # 1 連隊集中野営訓練



連隊は、平成26年7月2日(水)から7日(月)までの間、青野ヶ原演習場において、第1次連隊集中野営訓練を実施し、師団の陣地攻撃における師団段列の行動について練度向上を図った。

同訓練は、有機的な指揮・幕僚活動、移動及び展開、警戒・自衛戦闘、築城及び徒步行進を主要演習項目とし、2日昼、千僧駐屯地を出発、各部隊がそれぞれ拠点に進入後、演習場内に設定したコースにおいて約35kmの徒步行進を行い、翌3日からは、状況下における訓練を3夜4日に渡って実施した。

移動及び展開では、指揮官先行型、及び副指揮官先行型をそれぞれ演練した。築城では、機関銃用掩体、歩哨及び個人用掩体の構築、警戒自衛戦闘では連隊本部と各部隊との連携を重視した訓練を実施するなど、所期の成果を納め訓練は終了した。

## # 2 連隊集中野営訓練

### 検閲前の総仕上げ

連隊は、平成26年8月11日(月)から14日(木)までの間、あいは野演習場において、第2次連隊集中野営訓練を実施した。

当初9日から訓練を開始する予定であったが台風11号に備えるため、千僧駐屯地において情報所を立ち上げ情報の収集にあたった。

第1次連隊集中野営の主要演練項目に加え、支援業務、対特殊武器防護を実施した。

11日昼、あいは野演習場に向け前進、同日19時より約35kmの徒步行進訓練を実施し翌12日、13日と1夜2日に渡る短い期間の中で、車両行進移動及び展開、警戒・自衛戦闘、支援業務、対特殊武器防護等、師団の陣地攻撃における師団段列の行動について練度向上を図り、多くの成果をあげて、9月に実施される師団訓練検閲に向けての最後の連隊集中野営訓練は終了した。



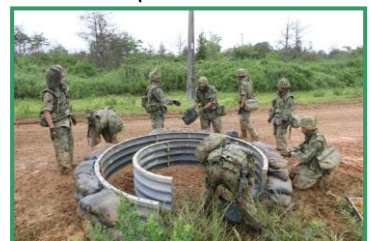
遊撃対処



掩体構築



展開地進入



検問所構築



# # 1 師団訓練検閲支援 (兵站支援隊)



糧食交付所



救護所



燃料交付所



食堂(配食支援)



入浴支援



班検閲(補給班)

## 連隊重機関銃射撃訓練



連隊は平成26年7月27日(日)から30日(水)までの間、日本原演習場西地区(RR射座)において、12.7mm重機関銃対地射撃訓練(第3習合)を実施した。今年度は第1整備大隊が訓練担任部隊となり、正確な照準・撃発及び確実な射撃姿勢を主要演習項目に、衛生隊を除く各部隊から14名が参加した。参加射手はいずれも初めての実射訓練であったが、14名中13名が到達基準に到達させる等所期の成果を収めることができた。

## 支援任務の完遂

連隊は、平成26年6月10日(火)から18日(水)までの間、青野ヶ原演習場及び信太山演習場で実施された第1次師団訓練検閲において兵站支援隊を編成し、同訓練検閲を支援した。

兵站支援隊は整備支援班、補給支援班、救護支援班を編成し、支援施設を開設、整備支援班は車両整備14件、通信整備2件、需品整備1件、補給支援班は糧食交付が生鮮品約5.8トン、耐久品3.09トン、携行食10.110食、増加食2.1トン、給水支援85トン、燃料交付が軽油7,700リットル、ガソリン1,547リットル、灯油780リットル、入浴支援727名、救護支援は47件の実績を上げた。

また13日には、河野連隊長が視察し状況報告を受けた後、各支援班を周回隊員への激励をされた。

兵站支援隊は9日間に渡る支援任務を無事完遂し、師団訓練検閲の実施に寄与した。

## 南海レスキュー26

連隊は、平成26年6月2日(月)から9日(月)までの間、平成26年度自衛隊総合防災演習(26JXR)及び南海レスキュー26に連隊長以下延べ265名で参加した。

2日(月)から4日(水)までの間、衛生隊が、南紀白浜空港において「艦艇からの患者収容訓練」に参加。自衛隊機、米軍機により空輸されてきた傷病者を救護所へ搬送し、重症患者等は大きな病院に運ぶため再びヘリに乗せる要領等を演習した。また、自衛隊阪神病院に救急医療対処としてトリージング天幕を展開した。

5日(木)、補給隊及び輸送隊が大阪府堺市にあるコスモ石油において「燃料供給実動訓練」に参加。資源エネルギー庁等と燃料の受領・輸送訓練を実施した。関係省庁、企業との初めての訓練で、連携の重要性を改めて認識した。

7日(土)、本部付隊及び補給隊が和歌山市立湊小学校において、「生活体験支援」に参加し、足湯を開設及び野外炊事支援を実施した。特に、足湯は行列が出来る程人気だった。野外炊事も「おにぎりがとても美味しい」と周りから声が聞こえ、好評を博した。

7日(土)から8日(日)の間、連隊独自の訓練を信太山演習場において災害派遣対処用の師団段列開設・運営訓練を実施。その際、野外支援車の開設の検証を行い、災害派遣対処時の資を得ることができ、無事、訓練は終了した。



米軍機からの患者搬送訓練(南紀白浜空港)



民間(コスモ石油)との連携訓練



UH-1からの患者搬送訓練



# 広島県豪雨に伴う災害派遣

## 〔第3後方支援連隊生活支援隊〕

連隊は、平成26年8月26日(火)1800、補給隊長(生活支援隊長)以下16名を海田市駐屯地へ向け派遣した。

千僧駐屯地において、師団長以下駐屯地所在隊員からの見送りを受けた生活支援隊は、日付が変わった27日(水)0008海田市駐屯地に到着、13後支隊の指揮下に入った。同日0930から13後支隊の作戦会議に参加、入浴所開設位置を確認し、現地での準備にとりかかった。

28日(木)0750、梅林小学校へ向け前進、1200より入浴支援を開始した。30日(土)、防衛担当副大臣及び13旅団長等の視察・激励等を受け、支援最終日となった31日(日)には、第3師団長及び連隊長の視察・激励等を受けた。

入浴支援では、連日80名を超す避難者が利用し、4日間延べ三百七十名の避難者等が入浴所を利用し、避難生活や作業でたまった疲れを癒した。

31日の産経新聞には、「六甲の湯」からさっぱりした顔で出てくる利用者の写真が掲載され、記事の中でも、「グラウンドでは陸上自衛隊第3後方支援連隊補給隊(兵庫県伊丹市)が仮設した「六甲の湯」が人気だ。」と紹介され、利用者の「広くて気持ちいい」「避難生活に潤いが出ました」「等のコメントからも、生活支援隊の活動が避難者の方々の癒しになって、補給隊長以下16名の隊員が、連隊代表として、「積極」「前向き」の精神で、誠意と責任感をもって任務にあたった成果の表れだと感じた。

同年9月1日、第3後方支援連隊生活支援隊は、113に梅林小学校を出発、兵庫県に入った時に配属を解かれ、第3師団の災害派遣については終了した。



入浴所前で剣玉をする避難者の女の子



第3師団長の激励を受ける派遣隊員

## 平成26年3・4月新隊員特技課程 第7期一般陸曹候補生課程 後期「需品」「衛生」教育入隊式



連隊は平成26年7月2日(水)、千僧駐屯地司令部庁舎第1会議室において平成26年度3・4月新隊員特技課程及び第7期一般陸曹候補生課程後期「需品」「衛生」教育入隊式を挙行政した。

式は、連隊OB会長川端様をはじめ、補給分隊長 杉木様、衛生分隊長 仲田様のご臨席を賜り、厳かに挙行政した。

河野連隊長は式辞の中で、「現在、陸上自衛隊は、国内外情勢の変化に伴い、国際貢献活動や災害派遣を初めとする多様な任務が与えられている。我が第3後方支援連隊においても、東日本大震災に伴う災害派遣に、延べ三百九十八名、台風12号に伴う災害派遣に、延べ二百六十六名の隊員が被災地において災害派遣活動に従事した。さらに、国際貢献活動においては、第5次南スーダン国際平和協力隊へ五十三名の隊員を派遣する等、後方職種へのニーズは高まっている。」と述べ、「最後に、本教育が終了した時には、新隊員諸君が、より一層逞しく成長、飛躍している事を切に期待する。」と激励し、式辞とした。



子供にも人気の「六甲の湯」



取材を受ける補給隊長



帰国報告する派遣隊員(千僧駐屯地)



出迎え(姫路駐屯地)



申告

**UNMISS帰国行事**

派遣の全53名が無事帰国

連隊は平成26年6月21日(土)、千僧駐屯地において師団が計画実施した南スーダン派遣施設隊(第5次要員)帰国行事に、連隊の各部隊から派遣された53名の隊員が家族とともに参加した。

各部隊からの支援人員35名が実行委員としてそれぞれの部署で支援を実施した。また、師団帰国行事終了後、E号隊舎南側において連隊帰国報告行事を派遣隊員家族とともに河野連隊長以下全隊員で実施し、派遣隊員全員の労をねぎらうとともに、無事の帰国と任務達成を称えた。



# TV取材対応(よみうりテレビ:ニュースten)



2整大2DSによる展示



炊事車に感心する石田氏



女性隊員たちにビックリ!



二人のやりとりは漫才そのもの!



女性隊員との記念写真



たこ焼き(2整大)



とうもろこし(輸送隊)



OB会役員の方々



ドラ○も〜ん!?(1整大)



衛生教育隊チーム



需品教育隊チーム

平成26年6月26日(木)、千僧駐屯地に「関西情報ネットワークten」月曜日レギュラー石田靖氏、軍事ジャーナリストの井上和彦氏が来隊し、連隊はテレビ取材に協力した。

今回の取材の内容は、連隊が保有する野外炊事車1号、野外手術システム、重レッカーによる車両の回収作業、野外入浴セット、そして女性隊員達へのインタビューが取り上げられ、7月7日、同番組の中で放送された。

当初、野外炊事車1号の取材から始まり、野外手術システム、重レッカーによる車両の回収作業、野外入浴セットの取材をされた。

取材の中では、野外炊事車1号で調理した料理を試食したり、野外手術システムに関する説明、車両回収において実際に小型車両を重レッカーで吊り上げ、大型車両に積載する場面や女性隊員へのインタビューにおいては、石田氏、井上氏が女性隊員に対して質問したり、防弾チョッキの試着をされた。

最後に野外入浴セットの入浴体験を補給隊の隊員とともに、終始和やかなムードで取材は終了した。

## 千僧駐屯地納涼行事参加

連隊は平成26年7月29日(火)及び30日(水)の2日間、千僧駐屯地において駐屯地納涼行事に参加した。ご多忙中にもかかわらず、多数の部外協力者及び連隊OB会役員の方々ははじめ、現職隊員との懇親を深めることができた。また、部隊対抗盆踊りコンクールにおいて、各部隊は趣向を凝らした踊りを披露、補給隊の需品教育隊チームはお揃いのはつぴで踊り、「アイデ

ア賞」を受賞、衛生隊の衛生教育隊チームは、華麗な踊りで見事「ユーモア賞」を勝ち取った。第1整備大隊チームは、大人気アニメドラえもんの登場人物に仮装した隊員が「ドラえもん音頭」に合わせて踊り、観客を魅了したが、惜しくも賞を逃した。

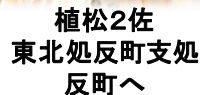
このほか、各部隊が出店した模擬売店では美味しい食べ物や子供向けの催しに大行列が出来るほどの盛況ぶりでした。

子供に大人気の  
カンナンレッド(河南3曹)とミナミブルー(南3曹)



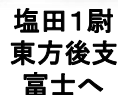
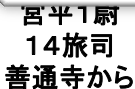


# 着任



# 離任

第2整備大隊  
第2普通科直接支援中隊長から



## 定期異動

## 7 月 転 出 者

[illegible]

## 成績等優秀者紹介

補給隊  
3曹 永岡 宗一郎  
#125期 1次陸曹候補生課程において  
中部方面総監より方面総監賞受賞



2 整大2直支  
3 曹 村津 一平  
#139 期初級陸曹装輪車整備課程において武器学校長より学校長賞受賞



# 戰技能力優秀隊員紹介

毎月、月末点検時に実施している各部隊から選抜された陸士隊員を対象とした各種項目の優秀者です。

6月	実施項目	00式個人用防護装備の装着
補給隊		増田士長
		(記録 3分30秒)
7月	実施項目	化学防護衣の装着
本部付隊		神谷1士
		(記録 3分04秒)
8月	実施項目	手りゅう弾投擲
補給隊		川端士長
		(記録 目標から1m30cm)



# 河野連隊長離任

## 陸上自衛隊幹部学校(目黒)へ

平成26年7月31日付、第14代第3後方支援連隊長 河野玄治(こうのげんじ) 1等陸佐の離任式が行われた。連隊長職2回目の河野1佐は、離任の辞において、第2地対艦ミサイル連隊長時代は、東日本大震災に伴う災害派遣中の離任となったため、離任式を行うことなく幹部学校へ異動した経緯があり、自身1回目の離任式ということを明かし、連隊長員に対し、連隊長としての初めての離任の辞を述べた。



敬礼を受ける連隊長



見送り

着任時、「戦闘職種の後方支援のプロの君達とコラボが楽しみである。」と述べた河野1佐は、第3後方支援連隊長に新しい風を吹き込んで、幹部学校主任教官として目黒に赴任した。

### 定年退官者

永年の勤務

お疲れ様でした



6月5日付



7月1日付



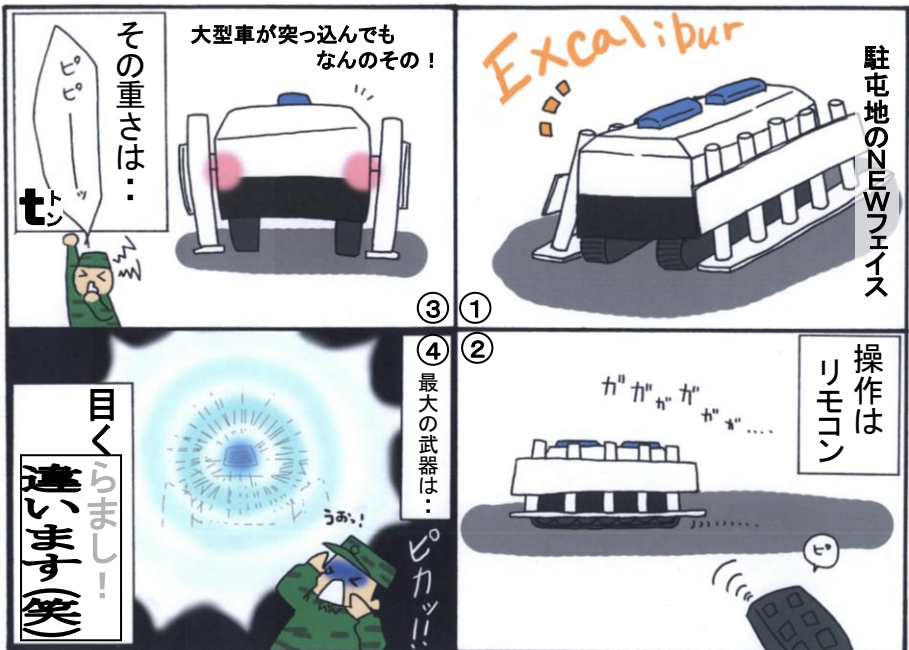
8月9日付

第2整備大隊  
准陸尉 田上 祐一

第2整備大隊  
准陸尉 奥村 光男

第2整備大隊  
陸曹長 神田 尚人

### 「正門の守り神・えくすかいぼー」 作: 衛生隊 中川士長



## 4コマ漫画

### 褒賞プレゼントなどぞクイズ

Q「目、口、心、土、木、王、十」を組み合わせて、二字熟語を作ってみよう。

※ 正解者の中から抽選で豪華商品がもらえます。

先号のプレゼントクイズの答えと褒賞プレゼント当選者発表  
答え(時間) 時間をかける、時間がたつ、時間をつぶす

褒賞プレゼント当選者 8 後支連(北熊本)2曹 城戸 武志

(ハガキでの応募当選者です)

応募方法

3 後支1科広報班宛にハガキで応募、もしくは、内線3403です。  
次回切は11月20日、当選者発表は「六甲」56号(11月下旬)にて発表。

### 連隊ホームページのご案内

連隊は、ホームページを開設しています。携帯電話、スマートフォン、自宅のパソコン等から第三後方支援連隊のホームページにアクセスし、ご覧になれます。

「第三後方支援連隊」を検索→「第三後方支援連隊HOMEPAGE」をクリック!

アドレス

[www.mod.go.jp/gsdf/mae/3d/3log/index.html](http://www.mod.go.jp/gsdf/mae/3d/3log/index.html)



### 編集部から

読者の皆さん、「六甲」をご愛読下さいまして誠にありがとうございます。この夏は、近年稀に見る天候の悪い日が続き、皆様もご存じのとおり、広島では、豪雨による土砂災害により多くの犠牲者が出ました。さらに、避難所での生活を余儀なくされている方々もまだ多数います。犠牲となった方々にご冥福をお祈りするとともに、一日でも早い復興を願います。さて、夏が過ぎようとして、9月下旬には連隊の最大の目標である師団検閲受閲がいよいよ迫ってきております。この2年間、積み上げてきた練成の成果を十分に発揮できるよう連隊一丸となって頑張っています。

ちなみに前号でお話ししていた夏ボディーにつきましては、夏に間に合わすことができず、海に行くことなく夏が終わってしまいました。

援護・広報幹部 広報陸曹 2曹 上之園 隆志 2曹 久松 飛雄馬



編集長(広報陸曹) 桑田 淳弘  
第2整備大隊 衛生隊 士長 中川 遙

編集長(広報陸曹) 桑田 淳弘  
本部付隊 1士 神谷 晴蘭

